

第 41 回「南山大学英語教員セミナー」概要

開催日時：2017 年 7 月 31 日（月）、8 月 1 日（火）、8 月 2 日（水）、各日 10 時～15 時

開催場所：南山大学名古屋キャンパス Q 棟 Q701 教室

テーマ：「英語教育とアクティブ・ラーニング：その多面的理解を目指して」

講師：江利川 春雄（和歌山大学教育学部教授）

Anthony Cripps（南山大学外国語学部教授）

鈴木 達也（南山大学外国語学部教授）

英語教育に「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す「アクティブ・ラーニング」の視点をどのように導入するかという問題は、現在、我が国の英語教育改革にとって最も重要な課題の一つと言って良いでしょう。今年の英語教員セミナーでは、この「アクティブ・ラーニング」について、150 年以上にわたる我が国の英語教育の歴史も振り返りながら、多面的に考えてみたいと思います。

第一日目は、英語教育史と協同学習論を専門とする江利川春雄講師が、幕末以降の貴重な資料も紹介しつつ、150 年以上にわたる我が国の英語教育の歴史において先人達がしるした努力の足跡を振り返ります。近年その重要性が叫ばれるアクティブ・ラーニングですが、江戸時代の我が国の外国語教育にその姿を見出すことは正に「目から鱗」で、アクティブ・ラーニングについての深い学びが可能となることでしょう。講演のみならず、授業で使えるアクティブ・ラーニングのワークショップも交えます。

第二日目は、Anthony Cripps 講師がアクティブ・ラーニングとはどのようなものなのかについて、実際に授業内で使うことができるアクティブ・ラーニングの具体的な技術について話します。高校英語教員を対象に定期的な研究会も開催している経験も生かして、英語教育におけるアクティブ・ラーニングの本質に迫ります。

最終日の第三日目は、鈴木達也講師が、「英語表現 II」の文部科学省検定教科書を作成した際の経験も踏まえて、アクティブ・ラーニングが英語教育にもたらす可能性と共にその問題点についても検討します。「英語表現 II」ではディスカッションやディベートといったアクティブ・ラーニングに深く関わる内容も多々含まれていますが、目標としているレベルが非常に高いため困難も多く、それを実現するには相当な工夫と努力が必要です。30 年にわたる講師自らの英語教育の経験や本学英米学科で平成 21 年度から 3 年間にわたって文部科学省の支援を受けて繰り広げた大学教育推進プログラム「多文化社会における英語による発信力育成」での経験も紹介しつつ、アクティブ・ラーニングについての理解を深めたいと思います。「主体的・対話的で深い学び」を通して、多面的にアクティブ・ラーニングについて考える、実りある 3 日間となりますようお願いしております。多くの皆様にご参加いただけると幸いです。